

13010 児童教育演習 I i Pupil Education Seminar I		3 年次～ 通年 4 単位	
担当者	小谷野 邦子	履修可能学科	Pe 必
		関 連 資 格	
サブタイトル	戦争・平和のなかの人間—平和教育の基礎を探索		
授業内容・ ねらい	今、子どもはもちろん、人々はますます生きにくくなっていていっているように感じます。虐待、いじめ、家庭内暴力、ひきこもり、等々。それらの根底に、社会における非人間化のメカニズム（構造的暴力・戦争）の進展を読み取る必要があるのではないのでしょうか。ここでは、人々の意識や人格に及ぼす状況の力をとらえ、“人間的”とはどういうことか、どうしたらより“人間の人間”になれるのか、広く社会心理学的に考えていこうというわけです。それが生活を見直し、人々の関係を見直して、平和教育の基礎を心理学的に探る道でもあると思います。		
授業計画	1. オリエンテーション 2. 4 年次生との交流（演習Ⅱ受講生から、昨年の体験からのアドバイスを聞き、1 年の流れを知る） 3. 直接的暴力と構造的暴力、積極的平和と消極的平和について（2 回） 4. 現代の諸問題に構造的暴力を見出す 5. 広い意味での戦争教育・非人間化とは 6. 道義的人間関係と人間モノ観 7. 人格のなかの感情 8. 偏見・差別・蔑視の心理学 9. “相手の立場に立つ”とは 10. 各人の関心と研究課題の設定（3 回） 13. 文献調査の方法、研究計画について（2 回） 15. まとめと夏休みの課題 16. 各自の課題と学園祭へのとりくみについて討論 17. 個人、またはグループで、それぞれの課題の研究について展望をもつ。 18. 文献や視覚資料収集とまとめ（3 回） 21. まとめ・発表の反省と今後の計画（2 回） 23. 手記や日記の分析について。聞き取り調査や見学などの可能性を考える 24. 各自のテーマについて調べてきたことを順番に発表し、相互に問題意識を深め、まとめる（5 回） 29. しあげた論文の相互検討。論文集作成（4 回）		
教科書 参考書	参）梅田・金子『差別と戦争を見る眼』、湯川進太郎『バイオレンス』、高橋哲哉『「心」と戦争』など。適宜紹介します。更に自分たちで文献を検索して、調べます。		
評価方法	ゼミおよびゼミ活動への参加態度、および研究や発表、討論への取り組み等、総合的に評価します。		
事前準備学習 履修条件等	授業時間以外（夏休み、学園祭、後期試験以後等）のゼミ活動があります。それにともない、ゼミ費その他の負担があります。原則として、4 年次もこのゼミをとることを予定してください。		